

ワイコム通信 Vol.12

欧州の包材規制（PPWR）と日本の環境規制

～世界の環境トレンドをキャッチ！～

環境トレンドで欧州が世界をリード、日本もそれに追従！

欧州の動き

環境への高い関心

欧州は環境問題に対する関心が極めて高く、市民・政府・企業が一体となって脱炭素化と循環経済の実現に取り組んでいます。

COPでのリーダーシップ

気候変動枠組条約締約国会議（COP）において、欧州は世界をリードする立場で、野心的な環境政策を提案・実行しています。

規制の厳格化

PPWRをはじめ、包装・製品設計・素材利用に関する規制を次々と導入。世界の標準となりつつあります。

日本の動き

→ 欧州の動きに追従

日本は欧州の環境規制の厳格化に引きずられるような形で、法整備を急速に進めています。

法整備の加速

排出量取引制度や再生資源の利用義務化など、規制の義務化が進行中。企業への影響は必至です。

グローバル対応

欧州との取引を視野に、日本企業も環境対応を急ぐ必要があります。遅れは競争力の喪失につながります。

📌 欧州の環境政策が世界標準となる中、日本企業も対応を急ぐ必要があります。
これからのビジネスは「環境対応」が必須条件です。

PPWR（包装および包装廃棄物規則）

欧州で動き出した「包装ルール」の大転換！

◎目的

包装廃棄物の削減とリサイクル率向上を目指すEUの新しい法律。
環境負荷を大幅に削減することが目標です。

🌐適用範囲

EU域内で使用される全ての包装と第三国からの輸出品も対象！
使用される材料や用途に関係なく、すべての包装に適用されます。

📅施行時期

2024年中に正式採択・施行予定。詳細ルールは2027年末までに策定。
実装準備は今から始まっています。

✔️重要ルール

リサイクル可能な設計（DfR）に適合必須。
2030年以降、これに適合しない包装は市場投入禁止。
プラスチック容器は35%以上のリサイクル材を含めることが必須。
バージン材使用量大幅削減が求められます。



PPWRは「待ったなし」のビジネス課題！



グローバル標準化

欧州の規制が事実上の世界標準になる可能性大。日本の企業も対応を迫られます。



サプライチェーン見直し

包装材の調達先や設計を、リサイクル性とリサイクル材含有率の観点から見直す必要があります。



コスト増の可能性

新しい素材や技術への切り替え、リサイクル材の確保で、一時的にコストが増加する可能性があります。



技術革新のチャンス

モノマテリアル化や高リサイクル材含有技術など、環境対応技術を持つ企業にとっては大きなビジネスチャンス！



対応案

PPWR対応のモノPETパッケージなど、リサイクル設計に優れた包材への切り替えを急ぎましょう！



日本も動く！

「脱炭素」と「資源循環」の法改正

脱炭素成長型経済構造への円滑な移行の推進に関する法律

排出量取引制度

2026年度から法定化。CO2排出量が一定規模以上の事業者に参加を義務付け。排出枠を無償で割り当て、事業者間で取引できる市場を整備。

化石燃料賦課金

2028年度から適用開始。化石燃料の使用に対して賦課金を徴収し、脱炭素化を促進。

資源の有効な利用の促進に関する法律の一部改正

再生資源の利用義務化

特定製品について、製造事業者等に再生資源の利用計画提出と定期報告を義務付け。資源循環を促進。

環境配慮設計の促進

解体・分別しやすい設計、長寿命化につながる設計など、環境配慮設計の認定制度を創設。



 日本も欧州に負けず、「排出削減」と「資源の再利用」を両輪で進めています。



🌍 日本も動く！

「脱炭素」と「資源循環」の法改正

🔧 努力義務から義務へ

再生資源の利用や排出量削減が、法律に基づく義務となり、未対応はリスクに。企業の対応が急務です。

🔗 サプライチェーン全体

排出量取引や再生資源の利用は、取引先を含めた全体での取り組みが不可欠。協力体制が重要です

🔧 製品設計の再定義

「環境配慮設計」の認定制度を活用し、解体・分別しやすい設計へ転換。差別化のチャンス！

📈 コストと競争力

環境対応は企業の競争力を左右する重要な要素に。長期的な投資として捉えることが重要です。

📅 実装スケジュール

排出量取引制度は2026年度から、化石燃料賦課金は2028年度から。準備期間は限られています。

環境対応計画の策定から排出量管理、ステークホルダー連携まで、サプライチェーン全体で統合的に取り組むことが重要！



まとめ：サステナブルサイクルの課題



規制対応とモノマテリアル化

規制に合わせて包装品（パッケージ）がモノマテリアル化されることは、用途を選べば技術的には十分に可能です。



リサイクルの現状と課題

わざわざモノマテリアル化しても、印刷や接着剤が付着した包装材は市場に出て消費者に渡ったものは、手間を掛けてモノマテリアル化しても、消費者から回収した印刷や接着剤の入った包装材を、PETボトルのような循環型リサイクルを実現することは困難です。

最終手段としてのサーマルリサイクルは理解できますが、モノマテリアルにする限りマテリアルリサイクル、ケミカルリサイクルを目指したいものです。

技術的な対応だけでなく、消費者の啓蒙、インフラ、リサイクル産業など回収基盤の整備まで含めた総合的なデザインが真の課題ではないでしょうか。

当社は包材の提供だけに留まらず、回収された使用済み包材のリサイクル処理のお手伝いに誠心誠意対応していきたいと考えています。是非、お気軽にご相談下さい。